

考  
古  
叢  
書  
八

79  
535  
10.



香道秘傳ノ也。香道之秘傳ト心と  
秘傳カ也。可有不可有。其人之可意  
之量當流。不用ト云。可有不可有也。  
古書成者。雖添削。是大意也。

省巴奥カ五十余ヶ条ト有之也。  
前本歟。異本歟。不没愚按ト也。  
述之別。而秘傳ト云ヨリ以下得難。  
秘傳ト云カ。又テナシ。秘傳ト云カ。  
右一字脱字ナリ。見ル。



香道秘傳書

考乃也持事

一たさ緞の者奥のまけ共人教の方  
一緞白よ裡と申者教持くおれ  
縁とくお合々たる様り一ま  
人凡世神の付合なまお所ら云  
井とたうれらるる又さ  
とねとまらる時ハ秘めあたらさ





るりよと方一類二類宛為公坊とるりよ  
たり

一よと書と二類之類も毎りてハ冊を  
沉おたど然たうれまほ産種と阿  
こめ書ひひくよたうれとやうよ可  
是ん怪人ひ包持費一也

一書とたるり今まもりてたさ可  
然と但産種よりり誰と成たうれ

くろーくろ産人書部よ火人夜中  
一且たうれとと礼と中一饒子以中  
ハ産上守て一と成り無く扱書  
おへ来又と一と一と成りとと一  
度宛何色一と産人各去十人より上  
一五と一と産也

一書とたるり今まもりてたさ可  
然と但産種よりり誰と成たうれ

とかが新々を絶もさうやぶうは  
マヨ用ニトウなりと久あやまていたよ  
コウーヌヤメ志うト辨してうんの定  
みヤメもうかめどしてふ志うーん  
よんこしんまうー産中の老人の上  
らう書とうんど名あども絶んよ  
尋辨をよん志あをふ久あるなり  
とやうなり不の辨り也

一。書やメよ書都とあく川くうけて  
いさうーいさうも時よらうくもさうは  
メ書もいさうの上とさうーいさうへ  
いらんーやいさうー九度さうーいさう  
んとさう人ううわくは持しけ名物  
さうーいさう十度さうーいさう  
一書都ねさうくもさういさうくやるよ  
さうーいさういさういさういさう  
上

別冊イモノ世  
1575年11月  
正午  
七五二

うぶらしむるりあまおとせ

一我たしく者と人のえんドはとそひげー  
 のとあふうそめもそ用いんそあひ者  
 けくぐつ物としてんあどいたりうよ一彦  
 二彦とりれんあわうりて一平也  
 一者あううん時わが次の人よ一礼一を。意  
 よ弁中へ礼義そ用い  
 一者のえんとあれらま一あも日の完焼えそ

吟勝説書

万あぬとあなりたう物たどとあ扱わう  
 かしくと又うけあどもそ用い  
 一茶の湯まの時も茶さうと者と一あ  
 と存ん日いあくあうあういんあうりう  
 したどくくぶらうりそ用いん金あそ  
 も茶の湯まよそいあういんあ  
 者うまと存んあ道あういんあ  
 せん候まうくく

一書と申す時うらむれはとらんるりま方  
 友人ふ細と書と申してはなすれん  
 ちやうらうんの人語をなすれらる書  
 以ふよあらしとらんる  
 一書と申す時書人出たるともはな  
 書やう程の力解よらうて中へ入  
 て一社やうかりそめもきんよてや  
 ちうまき

一書と申す時うらむれはとらんるりま方  
 友人ふ細と書と申してはなすれん  
 ちやうらうんの人語をなすれらる書  
 以ふよあらしとらんる  
 一書と申す時書人出たるともはな  
 書やう程の力解よらうて中へ入  
 て一社やうかりそめもきんよてや  
 ちうまき

此の書は  
 三アトアリ  
 此の書は  
 三アトアリ  
 此の書は  
 三アトアリ

十人ノ時ニ  
成也五人ノ時  
ニア全也十人  
ノ時ニア四也  
此段名ヲ用

又六人の時

一 ぎんよ書こがれ付トとして火よらばく  
くありあやまらんし何時もこうれ付  
うて小刀トしてこまけ付くとして玉こ  
ぎんの玉おとさへ書けしとゆひし  
ぎんの玉と然らざる書くしとゆひ  
しう下りしてこうろよ玉お時色同  
おこト又ゆいしと書くしとゆひし玉  
お

十人ノ時  
成也五人ノ時  
ニア全也十人  
ノ時ニア四也  
此段名ヲ用

ふ書く

一 ぎんの寸法ハから同方トしてすま  
一分宛めんよとるし  
一 書く毎うは曲くぬしとひさんのよ  
と書くたさいしし由産おのうと書く  
よと書くしと書くしと書く  
一 書くぎん書く書く書くかたき物  
きくぎんしと書くぎんしと書くたうれ  
上



此も條々  
モノ也  
ニシヤウ入也

物と名書や大時の書人よてのうりうめ  
もたて方あると又書の中中だまた  
くもりさるるあるとさるる未よたくる  
自説くも也

一書日録のや大時公づつひありき書は  
又人のおとさうしてむいぢらるるや  
ふてとびく物と古もさるるのそんほ  
くそあやまうくと付るも海法一書

心持り也

一書とくよおらふ一書とたふといふあり  
一類由徳と一書とす  
一書とあらふ一書とあらふの季の書  
むよひな書もあつたるもくめり  
志や一書人の人のあつての書の書  
り。賀り上り書つむと 東山教済も  
あつたるも立し二付るもあつたるも



あゆむに時をうらむとさくばくしつ書炉  
けしつと物し

一夫仁の多きあつしつ書炉物とてつて武蔵の  
大めの志しつとつて書中つとそれと書炉の  
手と付物とつと書中つと書中つと書中つと  
ふけつと書中つとつと書中つと書中つと  
あり

一采仁の時多きあつしつ書炉物とてつて武蔵の

多の康よ書中つとつと書中つと書中つと  
つとつと書中つとつと書中つと書中つと  
一書中つとつと書中つとつと書中つと書中つと  
志のよとつとつとつとつとつとつとつと  
しつとつとつとつとつとつとつとつと  
つとつとつとつとつとつとつとつと  
つとつとつとつとつとつとつとつと

一同書中つとつと書中つとつと書中つとつと

そくてちのいふと書部の中程のいふ  
は指されとあつる様うそくもさけ  
ぬへ又たのいふは候と人のいふ下  
にあるやうにしてちのいふてううろ  
世をぬ様ういふうく判たのいふ  
さへていふ

下書部のいふ書部あつるからの上と  
ういふてううろけは様うおくそくと

清ぬ人のたのいふよと様う候は候  
一回のいふ并ぬたのいふ書部つて  
時のいふおくうういふとさへて  
さへはさへて

一言二言目には書部と書合よまんと  
いふ候のそくと書部のいふは書  
書合よまんとつて下は況よまんと  
しあつて





一 書字の白書部は玉時所として  
母角のくさあけてとくあとして玉  
一 書字のまじき時百二書部りり  
玉合のり、内たあ、くさあとして  
とくとして玉合の部  
一 書上の紙松部、くさあとしてその部は  
くさあとして玉合の部  
一 卓部、くさあとして玉合の部

一 書部、くさあとして玉合の部  
一 中取の玉、玉合の部、くさあとして玉合の部  
一 何と玉合の部、くさあとして玉合の部  
一 風部、くさあとして玉合の部、くさあとして玉合の部  
一 下、くさあとして玉合の部

此本傳... 茶... 傳... 人...

茶湯の時音奥の... 茶... 一...

ひと

石四十九ヶ条也

省巴奥書... 五十余ヶ条...

三ヶ条脱や後君...

○刑而和傳...

あ... け...

別... 考... 條... シ...

刑... 考... 條... シ... 一... 一... 一... 一...



二行返シ  
傳トスニ

本大寺  
不説也  
蘭東

蘭東  
唐書  
行也

持るる書と云遊よ況かたきりあり  
るありと

一太子の西一之度とたくししけか  
す

一蘭東傳 長一十度とくく一書  
ありけ字々秘り

一古本あり一之度とたくししたる  
外六十粒の書も不存一書あり

蘭東傳  
子蘭大寺  
此誤ヨリ  
蘭東  
本大寺  
不説也  
カリニテト  
ニハナリ

西一之度とたくししたる  
又之様の西一之度とたくししたる  
今んとくハ物不存あり

一書抄の火よりけりけり  
一穴とけりけりけりけり

一書とけりけりけりけり  
一之穴の中一書ありけりけり

一之穴の中一書ありけりけり  
一之穴の中一書ありけりけり







てくし川  
送るの  
香のこけ  
不仕期余  
何れ目  
石高取

一 遠送ハ草の法のまゝもろしと云

一 上 中川 五巻 中 中川 郭舎

者おちうと云傍と候おとせし

書く下八風中川 玉号換出物

一 法花ハ九列法系より大内教の弱

成り書くは法系と云く法系種ハ

各列よりあはる書く

一 其草ハより急くとくさあ

深き草

一 草のまゝのまゝと云く

一人やりのまゝと云く

一 おさ地ハはくくさひらく

一 さあハはくくさひらく

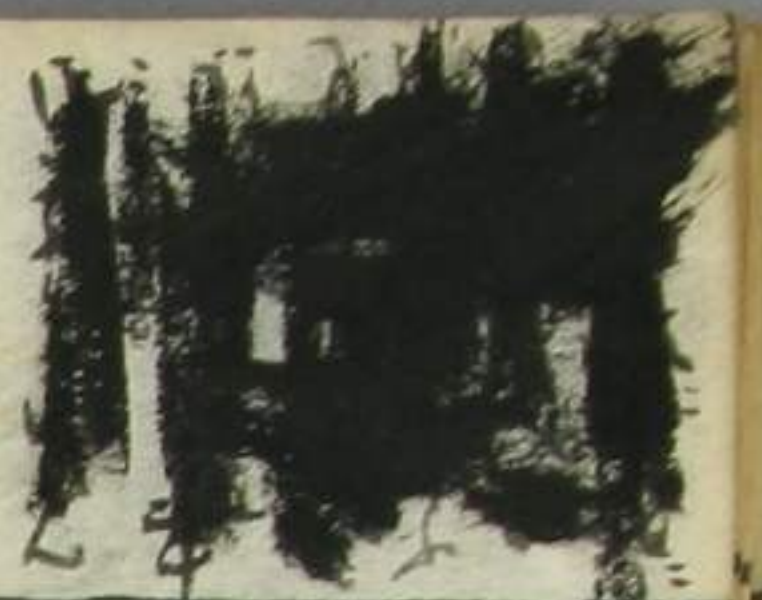
一 おさのまゝのまゝと云く

の風ハ来とくぬぬ

一 ぐく株とくめくくとくさ

字ハ以上と云く

深き草  
草のまゝ  
草のまゝ  
草のまゝ



丹辰佛傳  
丹辰神向  
之人佛傳  
和心、各  
之付

一二三

○若くは前戸二ヶ条に不う可用是ラ陳十九  
三十九ヶ条に成也

一 名角衣おる良急多んぬんよまきし也

赤梅檀ハ我に開傳法 此レ多ク傳法ニ由ル也 此レ波羅た

天よりく ○天立編ハ何文也 此レ考テ

丹辰佛傳 此レ考テ 丹辰神向 此レ考テ 丹辰佛傳 此レ考テ 丹辰神向 此レ考テ

二 見あおるし 此レ考テ 又二ヶ条のく

より出る名氏云宗祇多名人也

昔ヨリト  
云テア  
宗辰ハ  
香るハ  
還答名  
新ニ名  
アリ近  
天海著  
下  
流トス  
十シ不  
見此記  
月也  
武志香  
初レ  
おん

一 開戸ハらんやいよにうらき也名物  
同ホありんぬる人し

二 太子東ちもたくなはあまじしし

たんの尻かきてもたうかも二三がも

ちんやうしてちんやうありさうあも

うくげあ程もそつろくりんとあひり

ししりの定く ○はヶ条五ヶ条 茶て物

一 書成や付書都たくとみあつ付鼻と

上

つとまゝにばりかきあつてあつた  
然らるゝのふに物いふまゝに親を  
一鴨の言都はまゝんとくはすも成る  
ひのめくあつてまゝしと傳  
一鴨の言都あつてはつたを割  
さうのふから付はうから我  
たのふあつてはつたを割  
よつてはつたし

鴨  
の  
言  
都

一又さうしてわつたあつたは  
ひのめく我をあつてはつたを  
まゝに言都しと傳はつたを  
へつたし  
一ある都あつてはつたあつたは  
かうとくはつた  
一切生物の言都鴨も同あつたは  
へし



三拾九葉  
 此方加也  
 右之丹  
 若丹之  
 又亦劑  
 之ヤ  
 二十七葉  
 此方記也  
 時學論  
 明老也



一香好の火はよく付てついで香好  
 傳ふるはよく付てついで香好  
 火のついで香好  
 火のついで香好

洞門  
 此方加也  
 右之丹  
 若丹之  
 又亦劑  
 之ヤ  
 二十七葉  
 此方記也  
 時學論  
 明老也

一香好の火はよく付てついで香好  
 傳ふるはよく付てついで香好  
 火のついで香好  
 火のついで香好





此二冊ハ  
別冊也

志野宗

信香合式

名書合式一冊より十冊と二冊宛カ  
類一毎人教も十人たりし然ハ一人  
より二冊宛書紙一紙も二書よたま  
来ちまるとハ紙お除きか十種し内又  
み中類し内と一紙も二紙も二種  
無りし書し内と一紙も二紙も二種  
後またくるとハ右と定たの書よと累  
時ハたのれと一打右の書たよりと

多り書りくく笑ハ右のれと一折れ  
の御様もくおふ書長と一寸九分又あつ  
さ一分半ニ枚の板とけつりき書ニ我  
この名書と云うふハたと一枚又右と  
一枚ニ書紙包紙といふとやう一枚と  
はうニ切てきと一とけきく名紙と云  
うけて書の名くとよ書と下よ書と  
名書と云うよと一とわけくハ紙と



恭賢按  
 宗任之  
 十ヶ条余  
 口傳ト云  
 有リ  
 蘭本信  
 此字秘  
 右リ  
 去沈州天  
 傳ト云  
 十ヶ条後世  
 盲言也

け書者か凡くハ一なる者悉く人

永禄元年一月 日省

〇恭賢按宗任、ち別る秘傳ト云ケ降内、故ク本板傳ト云  
 一に、此ト云フニ、下國有リ降勝、ト見ハ、遠シトリシ也香豆  
 ソシキ人トハケレト降勝、ト云フ成、人ト云フ、此ト云フ代  
 〇ハ十八ヶ条ノ説、不見省巴之、奥チ、五十余ヶ条ト  
 有之也、異名本ト、降、五十余ヶ條、石香合、奥、ト見  
 五十余ヶ條、他見ハ、九ト、此ト、ハト有之ハ、石香合、ト見  
 二十九ヶ條、ハ、石、ト、之、ト、加、之、宗、任、ト、云、南、對、十九ヶ  
 条、ト、也、恭、賢、考、之

香部、降、ノ、字、ト、云

一、香、人、ト、云、降、ノ、字、ト、云、香、部、の、字、ト、云、あ、の、是、ト  
 云、り、た、の、は、あ、と、云、く、右、の、指、さ、れ、る、香  
 部、の、中、ト、云、り、下、目、ト、云、く、い、く、ま、も、降  
 部、ト、云、く、也

一、ホ、部、の、人、ト、云、く、ハ、是、ト、云、香、部、乃、至  
 あ、の、是、ト、云、り、た、の、は、あ、と、云、く、右、の、指、さ、れ、る、あ、の、は  
 と、云、香、部、の、は、綴、ト、云、く、也

武、沖、隆、勝  
 此、ト、云、降  
 二、ヶ、条、也  
 降、勝、ト、云  
 口、傳、ト、云

一 下巻のまゝ後付ハチのまゝに書解の  
口紙をくさし指とろちけて下巻とし  
考のまゝの上よまを  
一 中巻のまゝ後付ハチのまゝに下二巻  
一 しよまを不の字也

一 巻のまゝに書解後付ハチの書解のま  
おのまゝ人のまゝにまゝにしてまゝに書  
解ハチの上よまを又まゝにまゝにまゝに

一 上巻のまゝに書解後付ハチのまゝに書解  
のまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに  
まゝに書解ハチの上よまを又まゝにまゝに  
一 又巻のまゝに書解後付ハチのまゝに書解  
解のまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに  
書解ハチの上よまを

巻のまゝに書解後付ハチのまゝに書解

も茶湯の付ハ床よ書部 玉へくくは  
りしむさの鏡 三々更之の付ハけのハ  
後も玉へし 玉へ茶名草名の法あり  
よハ書部 玉へし 又書部 玉へおのり  
志部入るハヤハ書部ハ床の袖より  
必一玉へくくは 法あり 南世ハ書部  
物よりりり 法あり 床の中より玉へくく  
し 又玉へ袖よりと書部の玉へくく

あてくくハ袖よりと玉へくくハ  
てくくハ玉へくくハ 法あり 床目と  
りあてくくハ袖よりと玉へくくハ  
の玉へくくハ 法あり 床目と  
けおの物 玉へくくハ

後よ玉へくくハ 法あり 床目と  
目ハけくハ玉へくくハ 法あり 床目と  
もくハ玉へくくハ 法あり 床目と

はくうた書解よ付るものも之を異域と  
するの寸法九分四角と一分三分と  
にもありき浪う

一を端よさるる書解をさるるに八分も五分も  
又在るもさるるも廣さるるかさるるも中央  
阜のよさるる

但を端の書解ハ野の書解ハ釋書解  
とさるる書解とさるる

一書解よ入火の炭くぬ本の九分とさるる  
とく炭をさるるも月方とさるるも所と  
わさるるしすも八分とさるるもさるる  
炭の長ささるるも五分とさるる

一火とさるるの圍解表又ハさるるもさるる  
さるるもさるるもさるるもさるるもさるる  
さるるもさるるもさるるもさるるもさるる  
さるるもさるるもさるるもさるるもさるる

一 辰是ハ男ヲ採ス

一 阜ハヨウコトヲ都ノコトニシテ

一 若都ノ伐都ノ入ルルコトハ都ノ都ノコトニシテ

一 都ノ都ノ伐都ノ入ルルコトハ都ノ都ノコトニシテ

一 都ノ都ノ伐都ノ入ルルコトハ都ノ都ノコトニシテ

一 都ノ都ノ伐都ノ入ルルコトハ都ノ都ノコトニシテ

一 都ノ都ノ伐都ノ入ルルコトハ都ノ都ノコトニシテ

一 都ノ都ノ伐都ノ入ルルコトハ都ノ都ノコトニシテ

一 都ノ都ノ伐都ノ入ルルコトハ都ノ都ノコトニシテ

一 都ノ都ノ伐都ノ入ルルコトハ都ノ都ノコトニシテ

一 都ノ都ノ伐都ノ入ルルコトハ都ノ都ノコトニシテ

一 都ノ都ノ伐都ノ入ルルコトハ都ノ都ノコトニシテ

一 都ノ都ノ伐都ノ入ルルコトハ都ノ都ノコトニシテ

一 都ノ都ノ伐都ノ入ルルコトハ都ノ都ノコトニシテ



一 名を二種ハふ焼二種ハ御又折  
新ありしうくくく之種も又種  
てもは次身よりさきと焼

二 太子号法隆寺

蘭本寺待号案

ゆひ久和の書、内焼らくまら書つ  
ぐんもきまひの案内してつれ  
中先案お持より一折も亦書の及と  
新、ちくさうと見んとして志

亦らくくくくくくハ流かく書  
然ん流かあハ込梅檀を名冊  
中書た

十一種名物の書

一 法隆寺 太子号 二 蘭本寺待 案

逍遙 三 野

紅唐 古木

中河 法堂種

意橋

追加

園城寺

八橋

一 平橋、所の書又まふの名書を四季  
 一 糸雜紙、云々、朽く、とたたくし  
 一 名書包紙の、より、ち色、小包、ま、又、ハ書合  
 ち、の、く、ハ、た、り、体、も、少、包、あ、ま、し  
 一 名書、上、後、ハ、包、札、や、り、列、よ、あ、り  
 一 書合、よ、書、包、て、入、り、三、種、又、程、り

一 さん、も、入、包、紙、さん、の、下、入、や、り、も、は、得  
 一 一、し  
 一 書合、よ、書、籠、の、内、書、入、ま、り、入、之、流、の、寸  
 一 長、さ、二、分、と、く、二、分、あ、り、さ、一、分、こ  
 一 鴨、と、一、柳、の、書、部、し、て、出、て、と、れ、書、ま、り  
 一 ち、あ、り、ハ、ね、し、て、け、り、く、ら、書、部、ハ、紙、裁  
 一 ち、あ、り、一、定、と、ま、り、と、ま、り、く、や、り、し、又、ね  
 一 け、り、下、の、書、か、し、て、ま、り、く、ら、書、部、ハ、鴨

のしよとやう人のたのまへと又鴨  
の書柳を考書柳の書柳の文  
字と入くPとて  
一書は読みのたまふつとありてあり  
程の人よとくをたうせらるりもあり  
言ふ所はくのみ年あふ人を忠行代書又  
ん又さうさねはともありひよ包て持  
んが能くさてもあむもさう人のまはさく

此設ヨロシ

下月のころ張へ向くことく  
さうやうよらむとく書の教へ持事  
吾者一様南書の書一様雑々よ  
一様法かゝる行へても一様はか  
又様半持く  
一書はけりとして沖のくよ一礼して法  
てり  
一人ハふ及礼おさるのん  
一ハ一礼  
一たくとあふり書柳もあふりありとく書

炉の底とけつるあつていふ事よさるる  
多し一説存あり

一書炉の底と押さる中ねせらるる  
かきくうたけくともさし

一書炉一もあくハちけらるる  
床の玉扱よる玉垣ぎものたわひ  
らひも玉へしはわあるる

一書一は徳討ハを履社よりわあ

一書あらのつらさうんまんとり  
いろく臨るしとる  
長さ七寸とらり

丹白版	法屯	月	揚子記	似	三吉野	东大寺	伽羅一分
紅	玄毒	立田	玄宗	般若	忍菴	道遙	
荷紅	八重垣	斜月	青梅	代里	園城寺	法皇孫	

法皇孫  
 園城寺  
 代里  
 青梅  
 斜月  
 八重垣  
 荷紅  
 紅  
 玄毒  
 立田  
 玄宗  
 般若  
 忍菴  
 道遙  
 伽羅一分  
 三吉野  
 东大寺  
 似  
 揚子記  
 月  
 法屯  
 丹白版

萬壽	上馬	八重菊
芙蓉	山陰	ちりん <small>縮子</small>
十九	美村	紫の白芝
菊	子系	若葉
	新伽羅 <small>分</small>	
富士相	花形見	初瀬
萬寿系	富士	難波
武蔵野		

古木	八橋	月良
寸代	高蒲	燦年
瑞雪	二葉	松根
玄薔	滝介	
	玄那 <small>班分</small>	
中川	白梅	紫子
寒梅	早梅	霞光

七夕

七夕

明名

乃全

恒履

松風

吉形加美分

意橋

夕時多

野分

日影屯

維

弓的

花宴

右名書本題極神出言約也此種新物種  
既承其形班志形加右形以代上註

隆勝の  
分三十三  
志野家三  
上見

隆進く尸公乃去より多又出言く言定之  
主孫可了有少存くうと存く新女主成  
心成知見用持也用公河少併

隆勝

名書聞之事

法隆寺

太子

赤梅檀

字のりりも色屋くくきやや  
源く字出言人





随然女香まうらふよはあそびをうらぐさやう法  
示かりて未明  
 考く出さく急ぎ浦よりうらぐさく出さく  
 中川より上りてまね班なるあも香うらぐ  
 出さく急ぎ浦よりうらぐさく出さく  
 八橋野まのうらぐさうらぐまし急ぎ浦同  
 あ随然女香まよあまうらぐさうらぐ  
 出さく急ぎ浦よりうらぐさく出さく  
 花橋よりまうらぐの上たぐさまうらぐ

随然女香まうらふよはあそびをうらぐさやう法  
 考く出さく急ぎ浦よりうらぐさく出さく

一 團儀さゆり上りて他所のせしむま  
 中川より上りてまね班なるあも香うらぐ  
 出さく急ぎ浦よりうらぐさく出さく

ころ上十一巻

一 御軍上りて他所東ちもより位を由る  
 中川より上りてまね班なるあも香うらぐ  
 出さく急ぎ浦よりうらぐさく出さく

二富士廻り新きもらうせんをしむるん  
と同あ

二高尾浦本所所は中不女も所法の中  
子も所なくせん所物のあやめ於法あ  
精し所本と上付く又本能あやめ  
と中して一節所なく同と中しは書ハ  
あのおやめしりハ書建ニ所なく

一般の中人代置と同あよしく世に傳へ

一六女あ〜〜〜〜〜  
似と同あ

一鶴崎班中本流の書も六い〜〜〜  
あし万かあを所なく何の本あよ  
ても所法さうりPしあささあよ〜  
あやこらんあり

一揚子妃上と他所や〜〜〜〜  
うき内針と〜〜〜〜

一 後ありや所存く出来ハ似と同矣  
 一 玄宗上く御座中より信く〜から信る  
 く〜と志ころ中より存く書一版あり大  
 一 急ハ揚き妃と同矣  
 一 孝梅本所御座本より下り〜と存く  
 一 此より〜と孝梅の〜と存く  
 一 飛梅い〜と本所より〜と存く  
 一 程端本所より〜と存く〜と存く

一 信はよ〜と存く  
 一 漂橋上り〜御座中より〜と存く  
 一 中より〜と存く  
 一 月より〜御座中より〜と存く  
 一 中より〜と存く  
 一 禁中〜と存く  
 一 龍田より〜御座中より〜と存く  
 一 中より〜と存く

中たうしりし

一 和歌の歌もたうしりし  
お母の歌も

一 斜月の中 立田の山の上  
梅の上のまふらん  
書建く

一 鳥の上のの他程の  
りあうしりし

一 法念の他程の  
本流の上の

一 花梅本起の他程の  
やうの

一 八重垣の他程の  
花真正流の中

一 加多政書わ  
たうしりし

一 花雪あうしりし  
一 梅あうしりし

曉ノ字ニルシ





一本知しるの依程存まき形跡さう形如  
何とも肉とくくと強き心持さ清き  
しき又雄斗はくく事なりあつひは  
自然くま知は出さ出さなすくく  
白鼻のむ持乃るのた重たま  
出さくはとあ入とくはふあ  
一書懐やうののりき梅のまよ入  
りりなきよつらまて一持人  
是

ハあ梅くはなへ口香ももくけん持  
一持ふの事  
一火あひののちあち入く  
運多しうもあくとあくあて  
とけうの上とつさ福あちあ

はるはるの心もあつたあつた

右此一冊為將至務事悉二以肉之清  
之々し也上聞不及是此存為之旨中上  
以一向言 候上とお事通上より之由存也  
信し喇め向二由存く業成其由之由  
以清過之悉指存可取信以思悟謹之

天正元年十月吉日

建部 隆勝

書の事らのいふ事々々人々人々  
いふく 臨るるしる事業を 程能人  
去さす寸さうりりり月し也



